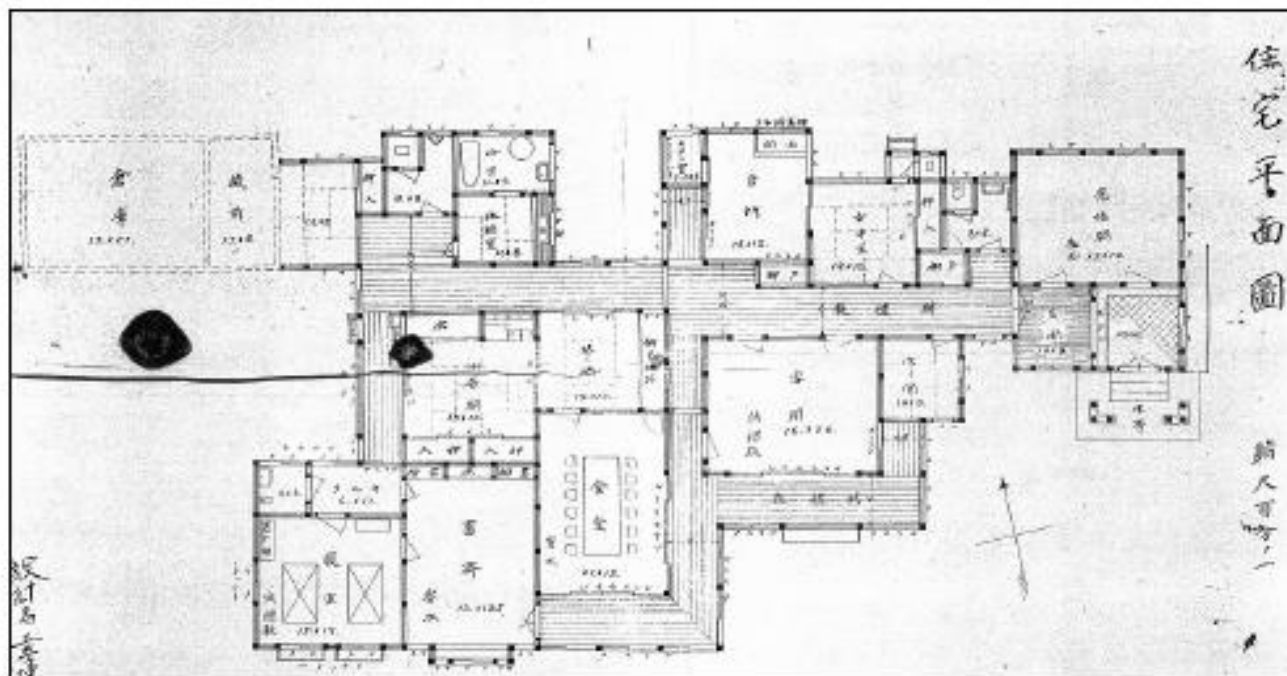


- (A) 各部屋が廊下で結ばれている
- (B) 廊下によって部屋の用途毎のまとまりが区画されている (家族用、客用、水廻り)
- (C) 家族用のスペースと比較して客用スペースが大きい 「中廊下の住宅」と仮定
- (D) 家族用諸室 (寝室、書斎、食堂) と客間が南面の良い場所に配置されている
- (E) 柱が非常に多く、柱間の両端に幅の小さな壁を配している

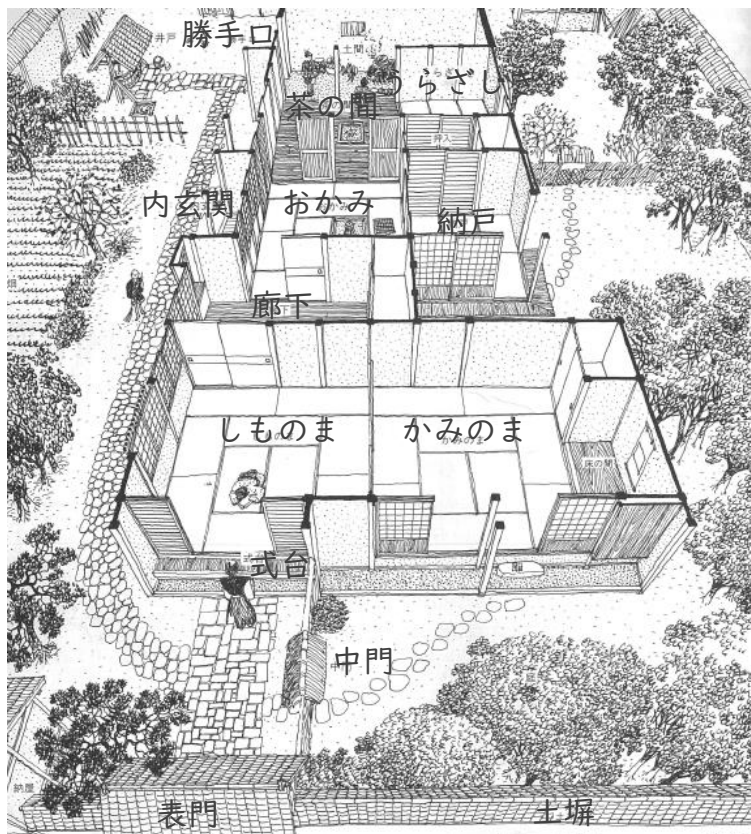


昭和 2(1927)年創建時の平面図 伊東忠太のサインがある図面(杉並区蔵)

■ 中廊下の住宅の系譜

中下流武家住宅 → 和風在来 → 中廊下型の住宅 ⇔ 居間型の住宅

- ・敷地の確立
- ・座敷構成（主座敷・次の間形）



江戸時代における下級武士のすまい

(上記参考資料 稲葉和也・中山繁信『日本人のすまい』彰国社、1983、p.74)



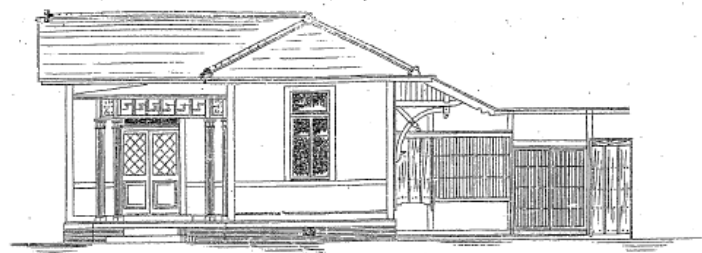
在来和風住宅の間取

真水英夫校閲 井上繁次郎著

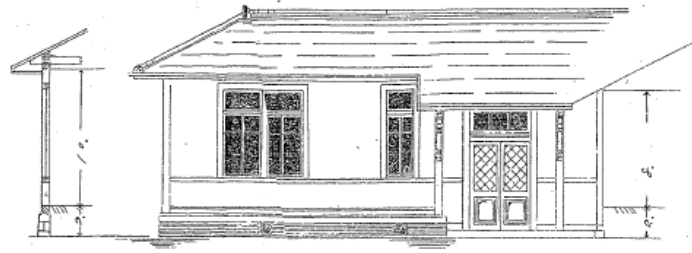
『通俗家屋改良建築法』東京博文館、明治35年、p.14

甲案

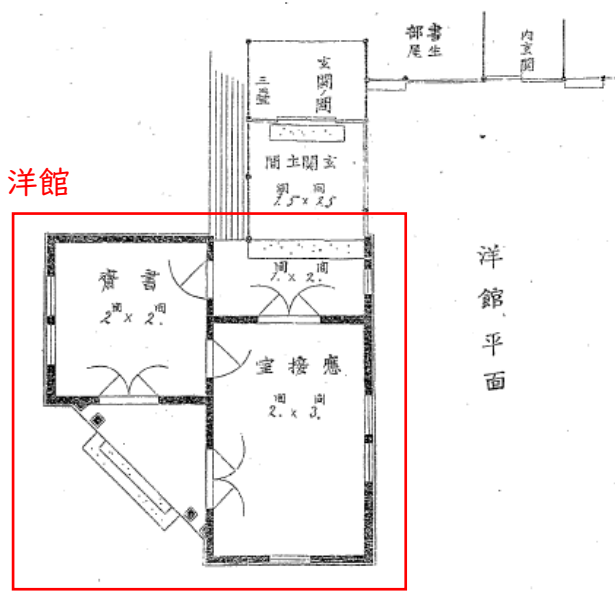
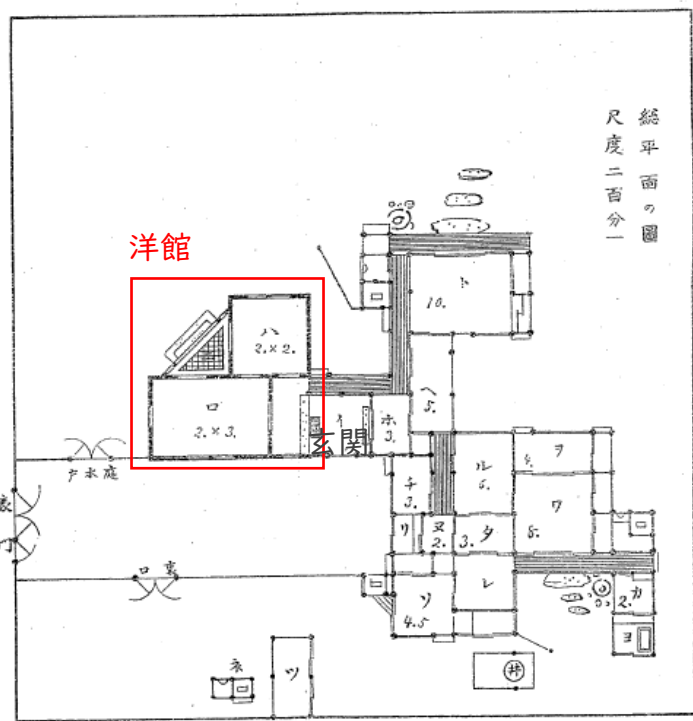
和洋折衷住家之圖
尺度百分一



側面



前面



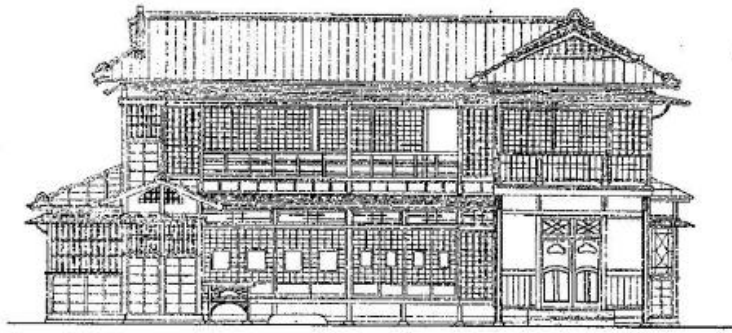
敷地 間口 十七間半 二百九十七坪五合
 總建坪 十七間 六十一坪二合
 内 本家 五十八坪七合
 附屬家 七坪五合

注
 × 平面圖中日本造作敷ハ字ツ
 以テ敷設シ表ニ隠進セリハ
 圓ヲ以テ大サツ示ス

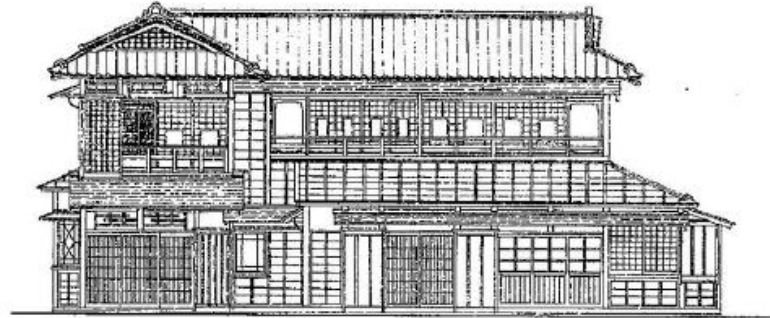
2020-09-26T12:04:55.868Z 山野敬史

在来和風に西洋の部屋を、また玄関を共通にして連続させたところに北田の特徴がある

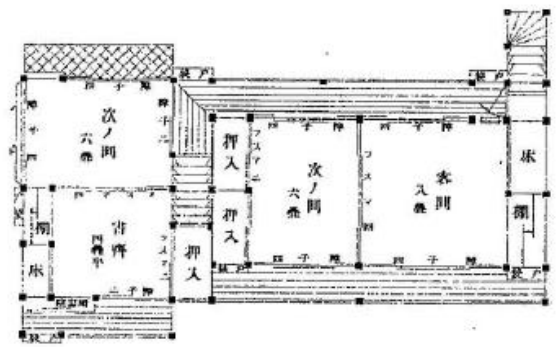
北田九一による和洋折衷住家の図（『建築雑誌』第144号、明治31年、p. 378-379の間）



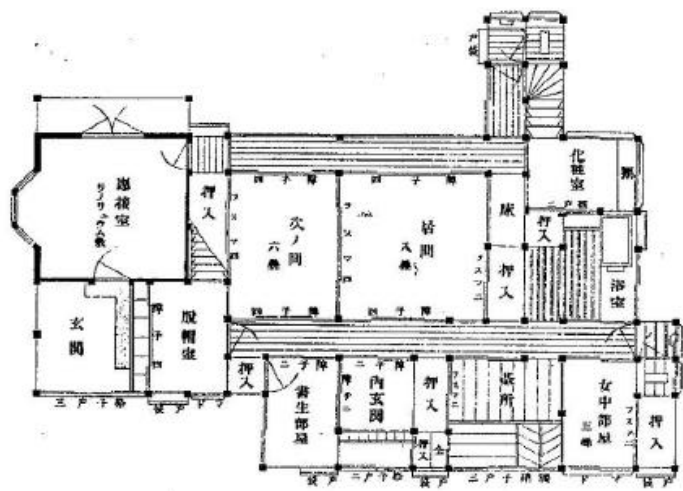
面背



面正



面平上階
(一之分百尺縮)

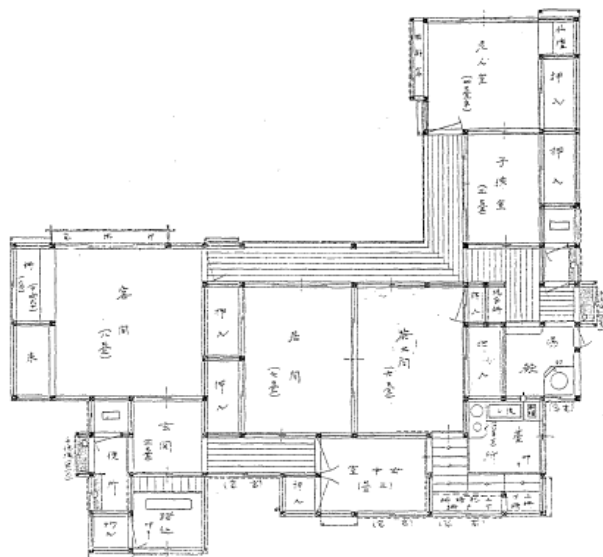


面平下階
(一之分百尺縮)

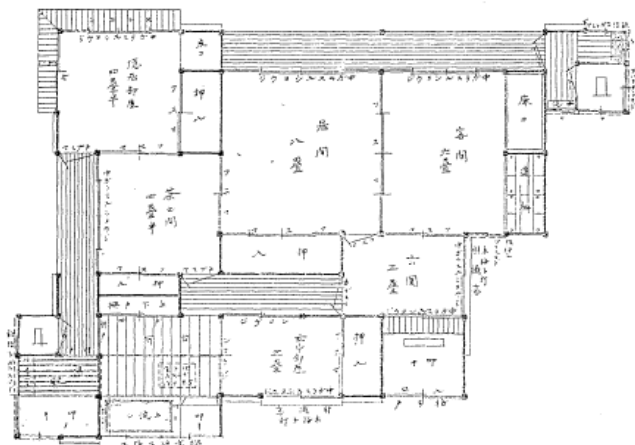
概算建築費
木造二階建 五拾九坪五合
一金五千貳百貳圓五拾錢
内、金千六百八拾七圓五拾錢 階上 貳拾貳坪五合 壹坪角金七拾五圓
金三千五百拾五圓 階下 三拾七坪 壹坪角金九拾五圓

和洋住宅建築図集に掲載された住宅のうち半分の事例に中廊下が採用されており、プロトタイプとして成立していたと考えられる

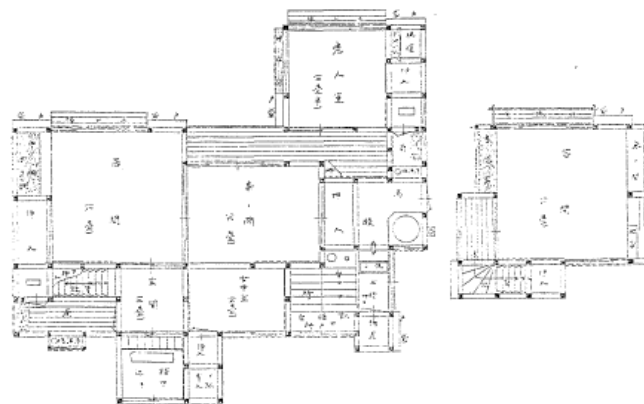
我国はじめての住宅設計競技



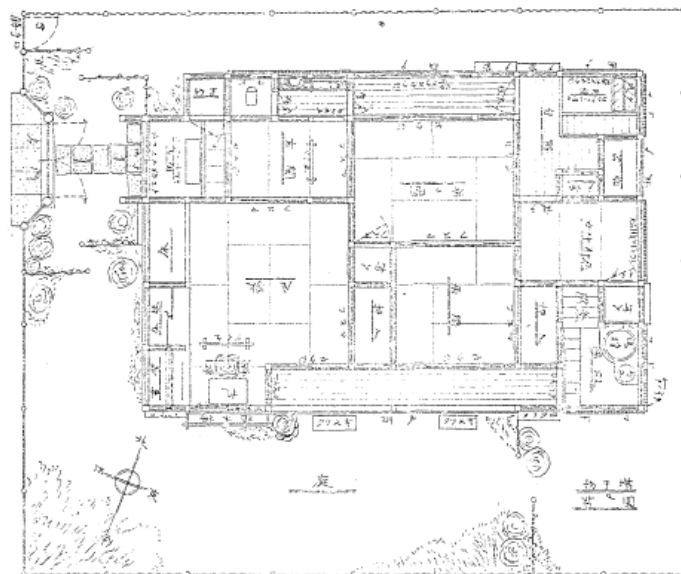
一等當選 准員 村上晴吾君案



二等當選 堀内恒雄君案



三等當選 阿部大郎君案



選外佳作 准員 荒井敏郎君案